

1 研究主題

互いを高め合い、よりよい学級・学校生活をつくろうとする子どもの育成
～自主的、実践的な集団活動の指導の工夫を通して～

2 主題設定の理由

今後の我が国は、生産年齢人口の減少、人工知能（AI）の飛躍的な進化、グローバル化の進展や技術革新等により、複雑で変化が激しい時代となる。また、新型コロナウイルス感染症の爆発的な流行により、その傾向はより顕著となっている。そのため、これからの社会をつくる子どもたちには、様々な変化に積極的に向き合い、多様な他者と互いのよさを生かしながら、自ら将来を切りひらいていく力が求められている。そこで、文部科学省は、平成29年改訂の学習指導要領解説特別活動編において、子どもたちに対し、これまで以上に自治的能力を育み、積極的に社会参画することの必要性を述べている。

本校は、豊かな自然に囲まれており、児童は日頃より保護者、地域の方々から温かな愛情を受けており、大変素直で純朴である。しかし、素直すぎるがために、大人からの指示に頼りがちな児童も多い。また、全校児童83名と小規模で単学級のためクラス編制もない。児童のほとんどが同じ保育機関出身で、互いの性格を熟知しているため、自分の考えを主張したり、考えの違う友達と議論したりする経験は少ない。さらに、学級・学校、自己の生活における課題を認識することはもちろん、自分たちで課題解決するまでには至っていない。

以上の社会的背景及び児童の実態を踏まえ、本校では、昨年度より児童のよりよい人間関係の形成や自治的能力の育成を目標の一つとしている特別活動に焦点を当てて研究を進めてきた。

研究の成果として、特別活動及び学級活動(1)における「よりよい集団をつくろうとする児童」の姿を共有することができた。また、学級や学校のために自主的に課題を発見したり、解決のために行動したりする児童を増加させることができた。しかし、よりよい集団をつくろうとする意識が上がらなかった児童がいたことやよりよい話合いの仕方について明らかにしようとすることはできたものの、そこでの学びを実践へつなげる有効な手立てを明らかにできていないことが課題として残った。

以上より、今年度は主題を「互いを高め合い、よりよい学級・学校生活をつくろうとする子供の育成 ～自主的、実践的な集団活動の指導の工夫を通して～」とした。児童一人ひとりが多様な他者と実生活における課題の解決に取り組む活動の指導の工夫を通して、集団や自己の生活、人間関係をよりよく形成しようとする児童の育成を図る。また、研究の柱として、「自主的、実践的な活動活性化のための手立て」、「学習環境づくり」を設定し、研究を焦点化して進めていく。

3 研究の目標

他者と協働しながら自己の生活を高め、よりよい学級・学校生活づくりに参画する子供の育成を目指し、自主的、実践的な集団活動の在り方を明らかにする。

4 研究の仮説

児童が所属する集団や自身の生活における課題を見出し、他者と協働して解決することを目的とした活動において、指導者がその活動を活性化させる手立てを計画的、継続的に取れば、児童は、集団や自己の生活及び人間関係をよりよく形成しようとする事ができるだろう。

5 研究の内容と方法

(1) 指導技術向上のための研修

① 授業の実践・・・議題、題材、授業展開等の研究

授業研究会（全体研3回）

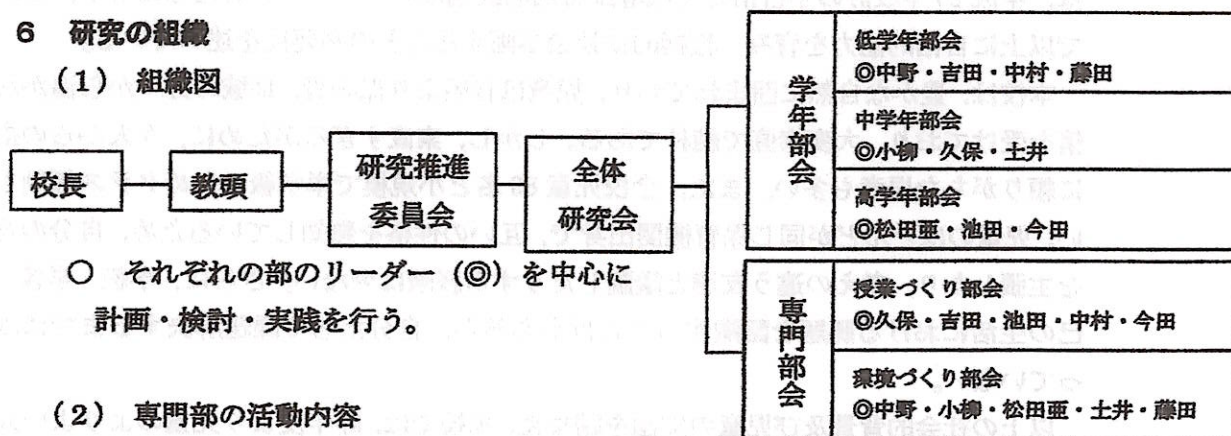
② 理論研究・・・講師招聘、先進校の視察・報告会

(2) アンケート等の調査の実施・・・児童の実態及び変容の調査

(3) 環境づくり・・・教室、校内掲示の工夫

6 研究の組織

(1) 組織図



○ それぞれの部のリーダー (◎) を中心に計画・検討・実践を行う。

(2) 専門部の活動内容

① 授業づくり部・・・児童の実態把握のための意識調査、学習指導案（形式）の提案、先進校、研究発表校の資料収集

② 環境づくり部・・・学習環境づくりの推進（教室・校内掲示）、教材・教具の作成および整理、保管

7 研究の計画

4月	研究推進委員会, 全体研究会 学年部会	10月	学年部会, 専門部会 研究推進委員
5月	全体研究会, 専門部会	11月	全体研究会（講師招聘・全体授業研②）
6月	全体研究会, 意識調査の実施	12月	全体研究会（講師招聘・全体授業研③）, 意識調査の実施・分析
7月	専門部会, 学年部会, 全体研究会（全体授業研①）, 意識調査の分析	1月	全体研究会（研究のまとめ） 専門部会, 学年部会
8月	研究推進委員会, 専門部会, 学年部会 全体研究会（講師招聘・理論学習）	2月	全体研究会（研究のまとめ） 学年部会
9月	学年部会, 専門部会	3月	研究推進委員会